

CUSTOMER STORY

設計から製造まで開発工程全体を支える
「SpaceMouse Pro」

3D Mouse: Space Mouse Pro™

Application: NX™



欠かすことのできないツールとして全ての3次元CAD端末に標準装備される3Dマウス

静岡県浜松市に本拠地を構えるスズキ株式会社は、優れた軽自動車に知られる四輪車、そして二輪車、船外機という三本の柱を中心に、事業を進める世界有数のメーカーです。同社では、それらのすべての製品群において、ハイエンドの3DCADとPLMをフルに活用する最先端の環境で開発を進め、お客様にとって優れた機能、ユーザビリティとコストパフォーマンスのバランスを満たした製品を実現しています。

そのような環境で開発を進める技術者たちがさらに、その持ち得る能力を存分に発揮することを側面から支援しているのが、すべての3DCAD端末に装備されている3Dconnexionの3Dマウスである「SpaceMouse Pro」です。実際、何からの理由でSpaceMouse Proが使用できない状況になった時には「これでは効率が悪くてたまらない」という声すらユーザから聞かれるほどです。

スズキにおける3Dマウスの活用は、3DCADの製品開発への本格的な適用と時を同じくしています。同社のITサポート部第一課長の石野昭彦氏は、「3DCADによる製品開発が始まった時から、弊社では3Dマウスを使用しています。そのため、実は使用前と使用後という比較ができないのです。

私たちにとっては、3Dマウスが開発環境にある、ということはごく当たり前のことなのです」と述べています。

同社では、主力事業分野の製品開発のすべてにおいて3D CADのNXを活用しています。開発プロセスの視点でも伝統的なユーザ層である設計部門だけではなく、上流である意匠から、生産技術、検査などの業務全般に一気通貫で活用しています

多くのメーカーにおいて、3DCADを使用するのは設計者ではなくモデラーである、ということも珍しくはありませんが、スズキにおいては設計者自身が3DCADを使用します。「設計者自身が設計をして、かつ自分もモデリングをする。自分で考えて自分で具現化する、ということがスズキのポリシーなのです」と石野氏は述べています。設計業務の中では、モデリングや検証の作業の中で、頻繁にモデルの拡大や縮小、パンや回転などの操作を行い、周りとの干渉を様々な方向から見る必要があります。一般的には、これらの操作はマウスのみで行いますが、一旦モデリングの操作を中断して行うことになり、思考の中断などにもつながってしまいます。



ITサポート部第一課長 石野氏

ところが、SpaceMouseProを用いることで右手での作業を中断することなく、視点の移動を自由に行うことができるため、業務の効率化につながっています。

SpaceMouseProのハードウェアとしての品質もさらに効率化に一役買っています。SpaceMouseProは、非常に能力の高いハイエンドの3DCADの能力を存分に活用することも可能なファンクションキーも備えたものですが、使い勝手の観点からも優れたデザインになっています。石野氏は、「CADユーザの多くは、SpaceMouseProに対して持った時のフィット感や、ほどよい重さを感じているようです」と述べています。このようなエルゴノミックな観点からも、業務の効率化に貢献しています。「普段設計者が自分の席を離れて業務をすることは、それほど多くはありませんが、そのような場合でもデザインレビューを行う場所にも、NXとともにSpaceMouseProが準備されているので問題ありません。出張において社外でCADを操作しなければならない時にはじめて、実はその環境が当たり前でないことに気がつくようです」と石野氏は続けるほど、スズキの設計者たちの日常に3Dマウスは存在しているのです。

3Dマウスの活用は、設計部門にとどまりません。NXが活用されている生産技術部門などでも、設計されたパーツを様々な方向から確認したり、金型設計では形状の確認だけではなくパーティングラインの検討などにも必要です。3Dモデルを操作する上で、視点の移動や回転は業務を問わず頻繁に行う作業です。つまり、設計者にとどまらずNXを使用するすべて技術者がSpaceMouseProのメリットを享受しているのです。

SpaceMouseProのメリットは、モデルの視点の変更をやりやすくする、というだけではありません。SpaceMouseProには、CADのコマンドをファンクションキーに定義することができるため、ヘビーユーザはこれらのキーを活用してさらに効率をあげています。これらのキーには、モデリングそのものの操作ではなく、全般的に使用するコマンド、たとえば表示関係のコマンドを割り当てて効率をあげている例が多い、と石野氏は述べています。言わば、NXヘッズアップGUIに出てこないものを定義することで、NXのGUIを補完するという使い方も可能になっているのです。

今、スズキではさらにSpaceMouseProの活用領域が広がってきています。これからは、CAEの分野における活用を考えています。「解析専任者も3DCADの教育を受けているため、自分でモデリングして解析結果を3Dモデルに反映させていますが、今後はその解析ツールでも3Dマウスが使用できるようになると良いと思います。」と述べています。

「今後は、3Dマウスの教育も積極的に進めていきたいと考えています。例えば、3Dマウスのファンクションキーは全てのユーザが使いこなしているとはいえません。3Dconnexion社には、そのような教育や情報発信も期待しています」と石野氏は述べています。すでに、当たり前前のツールとしてスズキの製品開発に定着し、欠かすことのできないツールとなっているSpaceMouseProですが、積極的な情報発信などを通じて、3Dマウスの持つポテンシャルをさらに引き出して、一層の製品開発の効率化が期待されます。



日本

3Dconnexion
東京都千代田区神田小川町3-6-10
MOビル 2F
電話: 050-3736-3766

Mail: Kazuki_takahashi@3dconnexion.com